

図面作成例

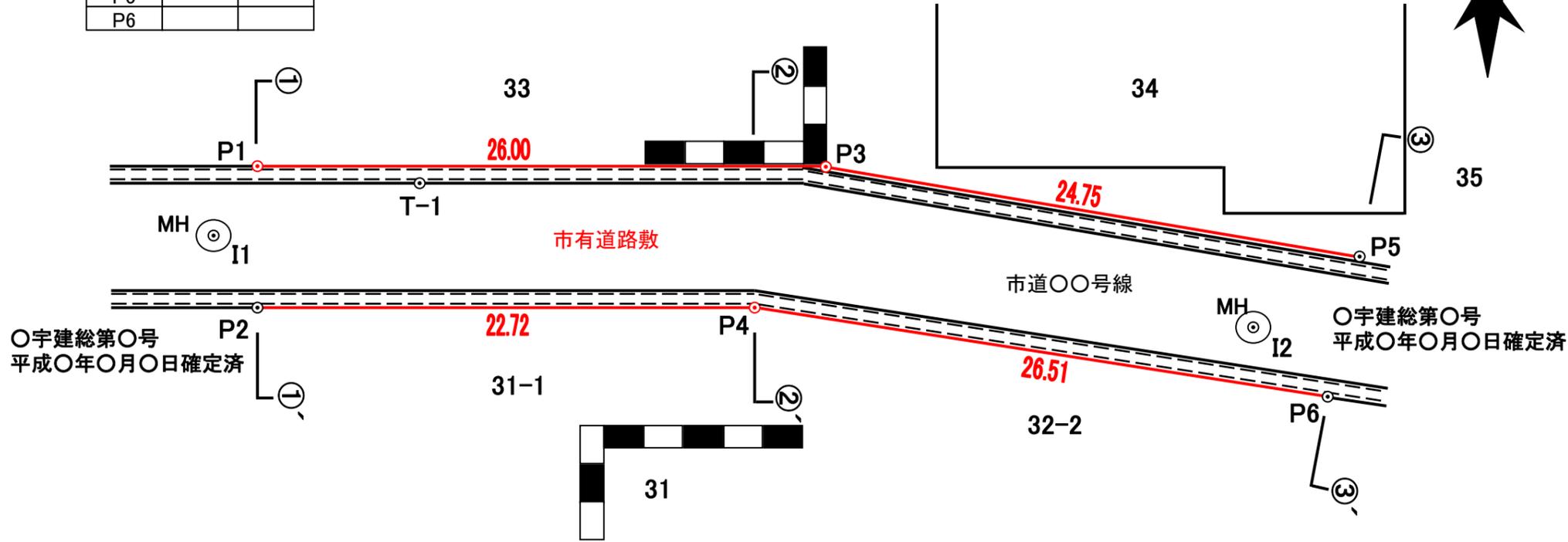
市有土地境界確定図

所在: 宇治市宇治琵琶33番先

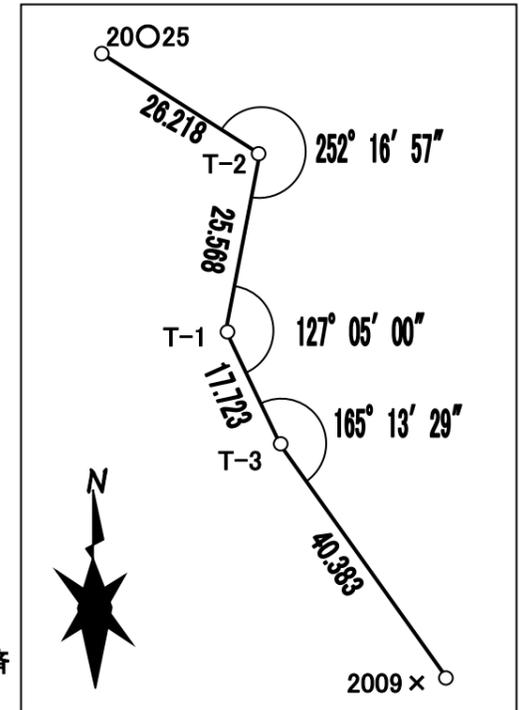
現況平面図 S=1:250

引照点間距離表

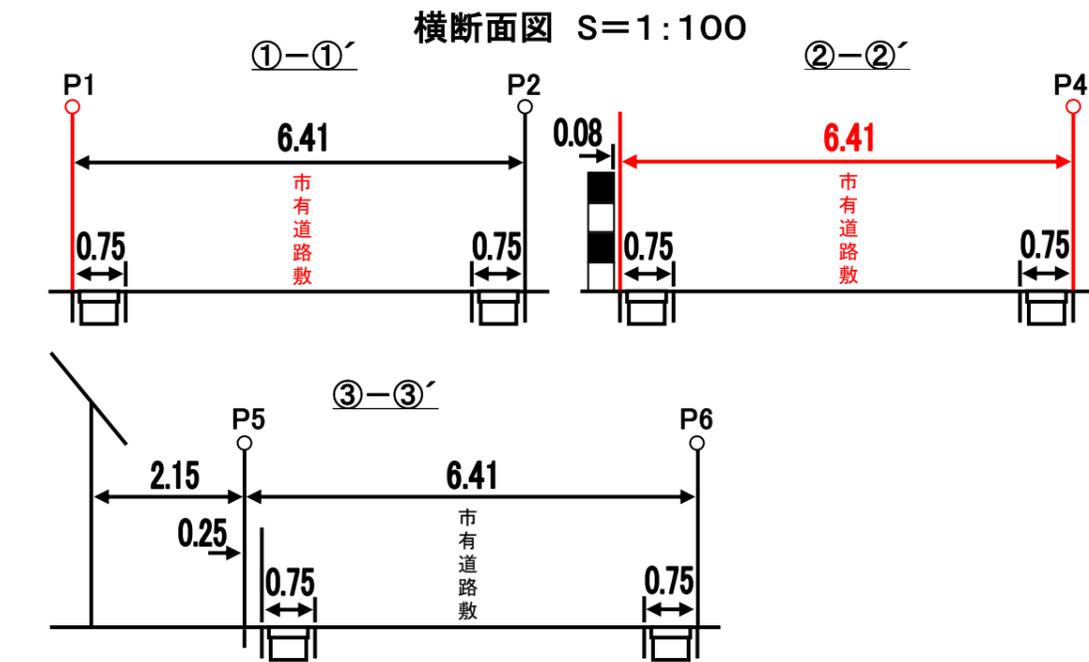
	I1	I2
P1		
P2		
P3		
P4		
P5		
P6		



多角点網図 S=1:1000



(世界測地第VI系 縮尺係数0.999905)



座標リスト

点名	X座標	Y座標	備考
P1			境界点
P2			既定点(既設市プレート)
P3			境界点
P4			境界点
P5			既定点(既設コンクリート杭)
P6			既定点(既設金属鈹)
I1			引照点(マンホール蓋中心)
I2			引照点(マンホール蓋中心)
T-1			補助基準点(金属鈹)
T-2			補助基準点(金属鈹)
T-3			補助基準点(金属鈹)
20025			街区多角点
2009x			街区三角点

証明欄

縦 10cm 横 12cm

余白

図面名	市有土地境界確定図
所在地	宇治市宇治琵琶33番先
測量年月日	平成〇〇年〇月〇日
作成年月日	平成〇〇年〇月〇日
作成者	印

図面作成例

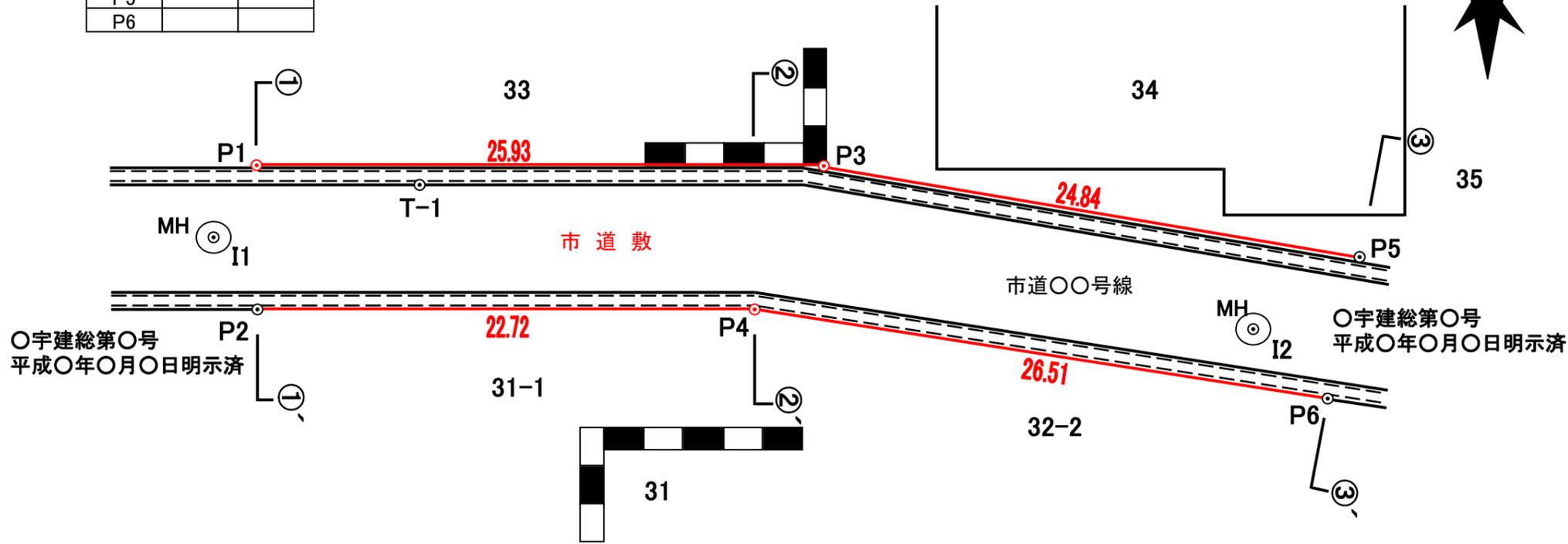
宇治市道路区域明示図

所在：宇治市宇治琵琶33番先

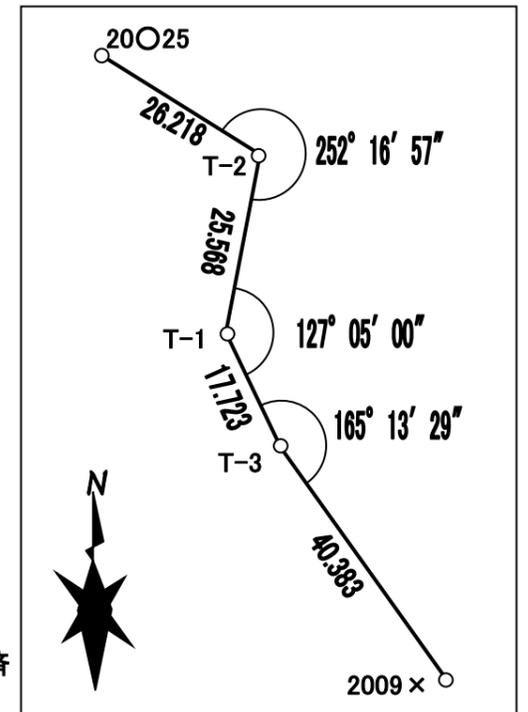
現況平面図 S=1:250

引照点間距離表

	I1	I2
P1		
P2		
P3		
P4		
P5		
P6		



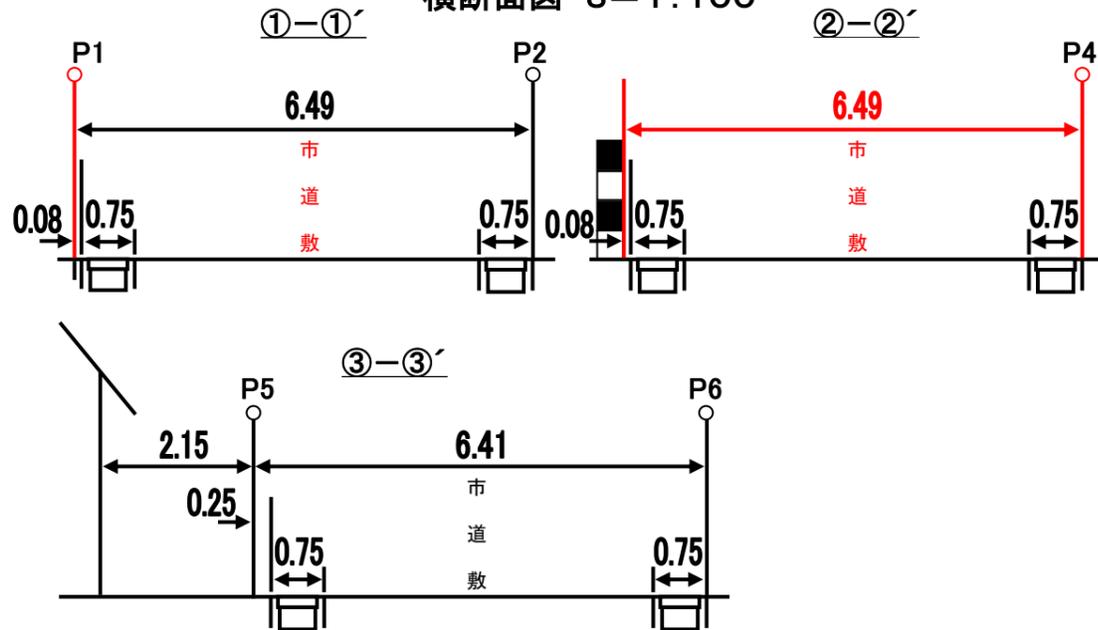
多角点網図 S=1:1000



(世界測地第VI系 縮尺係数0.999905)

証明欄
縦 10cm 横 12cm
余白

横断面図 S=1:100



座標リスト

点名	X座標	Y座標	備考
P1			明示点
P2			既明示点(既設市プレート)
P3			明示点
P4			明示点
P5			既明示点(既設コンクリート杭)
P6			既明示点(既設金属鈹)
I1			引照点(マンホール蓋中心)
I2			引照点(マンホール蓋中心)
T-1			補助基準点(金属鈹)
T-2			補助基準点(金属鈹)
T-3			補助基準点(金属鈹)
20〇25			街区多角点
2009x			街区三角点

図面名	宇治市道路区域明示図
所在地	宇治市宇治琵琶33番先
測量年月日	平成〇〇年〇月〇日
作成年月日	平成〇〇年〇月〇日
作成者	印

図面作成例

(確定・明示図面作成要領)

○図面全体

1. サイズはA2(必要事項が記載され、証明欄の余白があればA3でも可)
2. 表題は、「市有土地境界確定図」、または「宇治市道路区域明示図」
3. 所在は「宇治市〇〇先(外)」
4. 図面右下に証明欄用として余白(縦10cm×横12cm)を確保すること
5. 辺長表記は切り捨て、または四捨五入で統一すること

○平面図

1. 縮尺は1/250(山間部等の広大地は1/500でも可)
2. 下記の内容を表記
方位(原則、北を上向きに) * 申請地・隣接の地番 * 縮尺 * 座標値(世界測地系)
引照点間距離(小数点第3位まで記載)(表として別出しでも可) * 既確定・既明示 * 市道名
測量年月日 * 作成者名および押印

(注)

- ・所有者等氏名は記入しない
- ・確定点、明示点1点につき2方向以上からの引照点
- ・状況により、拡大図(縮尺は任意)を付ける
- ・測量年月日は、立会い日より後の日付
- ・確定の起点、終点、折れ点は朱丸
(既確定点・既明示点は黒丸とし、番号・日付・「確定済」または「明示済」と記載)
- ・確定線は朱書き実線とし、点間距離は朱書き
- ・ポイント名は黒字
- ・朱書きで財産の内訳を記入(地目等により変更)
(例:市有道路敷・市道敷、市有用悪水路敷など)

○断面図

1. 縮尺は1/100
2. 起点・終点・折れ点等を垂線でとる(おおよそ20mピッチ)
3. ポイントを通れば丸表記
(確定点・明示点は朱丸、既確定点・既明示点は黒丸)
4. 道路幅員、構造物(側溝等)によって確定・明示の場合はその幅員と形状
5. 両側確定・明示の場合は幅員の線・距離は朱書き
6. 朱書き(両側既確定・既明示の場合は黒字)で財産の内訳を記入(地目等により変更)
(例:市有道路敷・市道敷、市有用悪水路敷など)縦書き

○多角点網図

1. 縮尺・方位・角度・点間距離及び縮尺係数を表記